

McAfee Web Gateway Cloud Service

ユキビタスな保護を提供するクラウドベースのWebセキュリティ

Webを巧妙な脅威から保護するには高度な技術が必要になりますが、それによってコストが増えたり、管理が煩雑になるとは限りません。クラウドからWebセキュリティを提供することにより、セキュリティ チームは、メンテナンス用のハードウェアやリソースを用意することなく、オンプレミスのアプライアンスと同じ高度な脅威対策を利用できます。ネットワーク境界の外側からのアクセスが増えても、外出先のデバイスやユーザーにとってクラウドは統一の接点になります。トラフィックを特定の場所にリダイレクトするセキュリティを構築するよりも、より効果的にエンドポイントを保護できます。エンドポイントとすべての場所をクラウドに接続することで、ユキビタスな保護を実現できます。この新しい境界は、ネットワーク境界のように乗り越えられることはありません。

コスト効率の良いユキビタスな保護

オンプレミスでのWebセキュリティ アプライアンスの管理は多額なコストがかかるだけでなく、すでに多忙なセキュリティ チームをさらに疲弊させることとなります。Webセキュリティをクラウド サービスとして配備することで、総所有コストを抑えることができます。この場合、ハードウェア アプライアンスを購入する必要も、所有や保守の必要もありません。アプライアンスの保守やソフトウェアのアップグレード、パッチの適用などを担当していた人員をITまたはITセキュリティ部門内でより戦略的な業務に割り当てることができます。

また、アプライアンスとクラウド サービスを併用するハイブリッドな環境も構築できます。多くの企業はこのモデルを採用し、ネットワーク上のアプライアンスを制御し、小規模なり

モート オフィスや移動中のユーザーをクラウド サービスで保護しています。

ネットワーク上のWebゲートウェイ アプライアンスでフィルタリングするために、リモート オフィスからMPLS (Multi-Protocol Label Switching) 回線経由でWebトラフィックを中継していたITチームにとって、クラウド型のWebセキュリティは大きなメリットがあります。トラフィックの中継はコストがかかり、ネットワークが複雑になります。リモート オフィスからのトラフィックがクラウドに直接ルーティングされて保護できれば、MPLS回線を使用する必要がなくなり、ネットワーク アーキテクチャを簡素化できます。

これまでは、モバイル環境のユーザーやデバイスは保護できず、IT部門から見えない存在になっていたため、Webにアクセ

主な特徴

- コスト効率の最も優れた方法でWebセキュリティを配備。オンプレミスにハードウェアやソフトウェアを用意する必要はありません。
- 高度な保護機能を提供。トラフィックの処理時に振る舞いをエミュレーションし、ゼロデイ マルウェアをミリ秒単位で阻止します。
- モバイル環境のユーザーも保護。クラウドから保護対策を提供することで、従来のネットワーク境界の垣根を排除します。
- McAfee® ePO™ Cloudによる効率的な管理。統合管理コンソールでMcAfeeのすべてのクラウド サービスを管理できます。
- ネイティブ統合と、McAfee Cloud Threat Detection、McAfee Cloud Data Protection、McAfee Cloud Visibility—Community Editionとのポリシー共有
- 実証済みのアーキテクチャ。McAfee Web Gateway Cloud Serviceは、世界の大企業で採用されているオンプレミス アプライアンスであるMcAfee Web Gatewayのマルチテナント バージョンとして作成されています。

DATA SHEET

スできる従業員をネットワーク境界内に限定する必要がありました。Webセキュリティをクラウドに移行することで、この境界をなくすることができます。モバイル環境のユーザーとデバイスからのWebトラフィックは、エンドポイントからクラウドに自動的にルーティングされるので、自宅や空港、コーヒーショップなど、社外環境でも安全な接続を維持できます。物理的な障壁がなくなり、エンドポイントがどこにあっても保護することができます。

グローバルで高性能なアーキテクチャ

McAfee® Web Gateway Cloud Serviceはエンタープライズ向けのソリューションです。多くの組織が、現在のオンプレミスソリューションよりも優れたパフォーマンスを実現できます。たとえば、オンプレミスでセキュリティ能力を強化する場合、新しいアプライアンスを購入して配備しなければなりません。配備が完了するまでに数日から数週間かかる可能性があります。弊社のクラウドの場合、サービスが柔軟な設計になっているため、機能強化は15分程度で終わります。

オンプレミス アプライアンスに障害が発生し、修理が必要になると、インターネットへの接続が切断されます。また、障害発生時のWebへのフェールオーバーが有効になっている場合、セキュリティが低下する可能性があります。データセンターで障害が発生した場合、弊社のクラウド サービスは最も近いデータセンターにすべてのWebトラフィックを自動的に転送し、継続性を維持します。

弊社のクラウド サービス アーキテクチャは、世界最大の相互接続点 (IXP) でインターネット バックボーンに接続しています。これにより、中間のインターネット サービス プロバイダー

(ISP) のルーティング ホップ数が減るので、接続の待ち時間が少なくなります。Microsoft Office 365やGoogleなど、人気のコンテンツ プロバイダーへのホップ数が少なくなるため、オープン ネットワークに直接接続するよりも、弊社のクラウド サービスを介したほうが速く接続できます。

McAfee Web Gateway Cloud Serviceはグローバルです。Webコンテンツは、ユーザーが接続している場所ではなく、Googleの検索結果と同様に当該地域の言語で配信されます。Webトラフィックが処理されるデータセンターの場所と状態は<https://trust.mcafee.com>で確認できます。

洗練された脅威の阻止

非常に巧妙なマルウェアや標的型攻撃は、従来の防御策を回避し、システムやネットワークに侵入してきます。このような脅威に対して、セキュリティ チームはエンドポイントの修復に追われ、常に後手に回ることになります。従来のURLフィルタリングやシグネチャ ベースのアプローチと異なり、McAfee Web Gateway Cloud Serviceは、ファイル、JavaScript、HTMLのインライン エミュレーションを行い、ゼロデイやファイレスのマルウェアからエンドポイントを保護します。これにより、ゼロデイ マルウェアの侵入を阻止し、URLフィルタリングとシグネチャを利用するソリューションよりもブロック率が約20%向上します。マルウェア インシデントの発生数も減少するため、コストの削減だけでなく、リソースをより柔軟に活用することができます。不審なものは、弊社のクラウドベースの高度脅威分析ソリューションであるMcAfee Cloud Threat Detectionに送信し、分析できます。このソリューションは、McAfee Web Gateway Cloud Serviceのサービスと統合できます。

DATA SHEET

Webの脅威は、Webセキュリティの検出を回避するため、暗号化されたトラフィックで送信されます。クラウドストレージやソーシャルメディアなど、ほとんどのクラウドアプリケーションがデフォルトで暗号化トラフィックに対応しています。McAfee Web Gateway Cloud Serviceは、暗号化されたHTTPSトラフィックを完全に復号し、検査を行います。暗号化されたチャンネル内でもマルウェアを阻止し、クラウドアプリケーションの可視性を実現できます。

ほとんどのITチームは、増え続けるクラウドアプリケーションに苦慮しています。特に、シャドウITは大きな課題です。ユーザーが選択したサービスがリスクとなる可能性があります。HTTPSなどのすべてのWebトラフィックを完全に可視化することで、クラウドアプリケーションに対するアクセスを監視できます。McAfee Web Gateway Cloud Serviceは、McAfee Cloud Visibility—Community Editionは統合されます。これは、McAfee Data Loss Prevention、McAfeeの暗号化/Web保護製品をご利用のお客様向けの無料サービスです。簡単なダッシュボードに、クラウドアプリケーションへのアクセス、リスクレベル、データ分類が表示されます。有効にすると、トラフィックデータが自動的にサービスにフィードされます。追加のセットアップは必要ありません。可視化プロセスが自動化されるので、クラウドへのデータ移動を的確に把握し、組織に対するリスクを軽減できます。McAfee Cloud Data Protectionは、APIレベルでクラウドアプリケーションを統合し、データを制御します。McAfee Cloud Data Protectionは、McAfee Web Gateway Cloud Serviceに統合し、管理できる補完サービスです。

クラウドアプリケーション、特にクラウドストレージがマルウェアの散布方法として利用されるケースが増えています。マルウェアを散布するアプリケーションを識別することで、ポリシーを決定することができます。アクセスされているすべてのクラウドサービスを対象にすると、数千を超えるクラウドアプリケーション統制を実装し、アップローヤメッセージングの防止、アプリケーションのブロックなどを行ってリスクを回避する必要があります。

McAfee Web Gateway Cloud Serviceの稼働状況

弊社のデータセンターの場所、可用性、状況は、<https://trust.mcafee.com>をご覧ください。

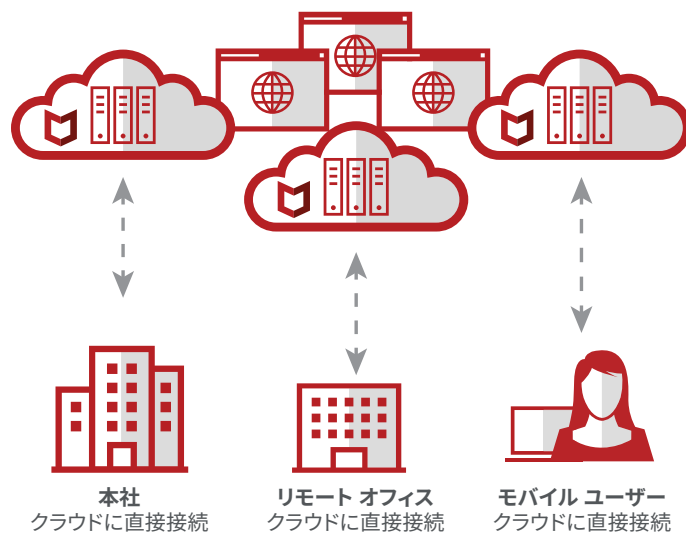


図1. McAfee Web Gateway Cloud Serviceの配備

効果的なセキュリティ管理

複数のコンソールとポリシーでセキュリティを管理することは煩雑な作業になります。オンプレミスとクラウド ベースのWebセキュリティを別々に管理すると、管理者の負担はさらに増加します。ハイブリッド環境の場合、オンプレミスとクラウドの両方を1つのコンソールで管理し、一定のポリシーを使用し、1つのレポート インターフェースを使用する必要があります。

オンプレミスのハードウェアやソフトウェアなしで単独で配備すると、McAfee Web Gateway Cloud ServiceはMcAfee ePO™ Cloudで管理します。この統合管理コンソールは、McAfeeが提供するクラウド ベースのすべてのセキュリティ サービスとエンドポイント セキュリティを管理できるので、効率的なセキュリティ管理を行うことができます。

エンドポイント デバイスにWebセキュリティを配備するのは簡単ではありません。特に、ルーティングや認証が問題になります。オプションのエンドポイント クライアントであるMcAfee Client Proxyを使用すると、弊社のクラウド サービスに自動的にルーティングし、認証を行うことができます。これにより、一貫したポリシーでクラウドに接続することができます。McAfee Client Proxyは、ハイブリッドな配備環境でシームレスに機能します。ネットワーク内では、アプライアンスへのルーティングを自動的に行き、モバイル環境ではクラウド サービスへのルーティングを自動的に行います。ルーティングと認証に追加のオプションがあります。これらのオプションは、組織の要件に合わせて選択できます。

詳細情報

詳細については、www.mcafee.com/jp/products/web-gateway-cloud-service.aspxをご覧ください。



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂 1-12-1
渋谷マークシティ ウエスト 20F
Tel. 03-5428-1100 (代表)
www.mcafee.com/jp

McAfee、McAfeeのロゴ、McAfee ePO米国法人McAfee, LLCまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2017 McAfee, LLC. 3018_0617
2017年6月